

被災者の回復後押し

どう進める心のケア

専門家3人に聞く

日本では1995年の阪神大震災以来、必要性が広く理解された「災害時の心のケア」。阪神や世界各国での経験を、いかに東日本大震災被災者の心の回復に生かすか。日本の第一人者である兵庫県こころのケアセンター副センター長の加藤寛さんと、復興期の心のケア研究会の代表者としてアメリカ国立子どもトラウマティックストレスセンターのメリッサ・J・ワトソンさんにインタビューし、本報被災地の取り組み取材した。

加藤 寛さん(兵庫県こころのケアセンター)



「個人にもコミュニティにも回復力はある。それを信じることに意味がある」と語る加藤寛さん

P.M.ブライマーさん(米国の支援者)



「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

メリッサ・J・ブライマー 米ノバ・サウスイースタン大で臨床心理学を専攻し博士号取得。アメリカ国立子どもトラウマティックストレスセンターのテロ&災害プログラム室長。ハイチ地震やノルウェー乱射事件後の心のケアにも関わる。



パトリシア・J・ワトソン ハーバード大医学部・ボストン子ども病院を経てアメリカ国立PTSDセンター上級教育専門家。大規模テロや災害後の介入、教育資料の作成に携わる。

かとう・ひろし 1958年、宮崎県生まれ。神戸大医学部卒。精神科医。医学博士。2004年から兵庫県こころのケアセンター所属。日本トラウマティック・ストレス学会東日本大震災特別委員会委員。著書に「消防士を救え! 災害救援者のための惨事ストレス対策講座」(09年、東京法令出版)、「心のケア 阪神・淡路大震災から東北へ」(共著、11年、講談社)など。

土台は生活の再建 加藤

「土台は生活の再建」加藤さんは、その指針を「心のケア」ではなく、被災者の生活の再建に置く。被災者の生活の再建が、心のケアの土台になるとしている。被災者の生活の再建が、心のケアの土台になるとしている。被災者の生活の再建が、心のケアの土台になるとしている。

時間や忍耐が必要

「時間や忍耐が必要」加藤さんは、被災者の心の回復には、時間と忍耐が必要だと述べている。被災者の心の回復には、時間と忍耐が必要だと述べている。被災者の心の回復には、時間と忍耐が必要だと述べている。

回復支援の技能学

「回復支援の技能学」加藤さんは、被災者の回復支援には、様々な技能が必要だと述べている。被災者の回復支援には、様々な技能が必要だと述べている。被災者の回復支援には、様々な技能が必要だと述べている。

「心のケア」は、被災者の生活の再建を前提としている。被災者の生活の再建が、心のケアの土台になるとしている。被災者の生活の再建が、心のケアの土台になるとしている。

真価示した保健活動

陸前高田・震災初期から大規模展開

死者1504人、行方不明者298人、市街地壊滅、県立高田病院全壊、市保健師9人中6人死亡。極めて過酷な状況に置かれた陸前高田市で、延べ1万人以上に及ぶ保健師が、外部支援者の応援で展開された保健活動は、世界を驚かす日本の地域保健システムの真価を示した。

避難者訪れ健康調査

避難者訪れ健康調査 傾聴主体、心に寄り添う。被災者の健康調査は、傾聴主体で行われ、被災者の心に寄り添うことが大切だとされている。被災者の健康調査は、傾聴主体で行われ、被災者の心に寄り添うことが大切だとされている。



今後の地域保健活動を協議する大船保健所上席保健師の花崎洋子さん(右)と名古風市派遣の保健師日高橋子さん(左)と陸前高田市役所保健師

被災地からのメッセージ

陸前高田市小友町 佐藤 春希君 (小友中3年) 震災発生から間もなく1年が経ちました。震災発生から間もなく1年が経ちました。震災発生から間もなく1年が経ちました。

被災地へのメッセージ

仮設住宅の寒さ心配 復興願い手作り人形 絆の重要性を再認識。被災地の現状や復興への願い、絆の重要性について述べられている。被災地の現状や復興への願い、絆の重要性について述べられている。

「絆の重要性を再認識」被災地の絆の重要性を再認識し、復興への力を生かすことが大切だとされている。被災地の絆の重要性を再認識し、復興への力を生かすことが大切だとされている。